

# 令和3年度 ちぐさこども園 学校関係者評価委員会報告

日時： 令和4年 3 月 30 日(水) 11:30～12:00

場所： ちぐさこども園保育室

出席者： 青木忠昭(法人役員)、靱山英一(同)、飯島千明(同)、星川嘉一郎(元市議)、小熊あみ子(元小学校校長)、天野純一(住職)、  
星野雄一(保護者代表) ※順不同、敬称略 ★コロナ対策として、青木氏を除いた6名は書面にて報告&意見交換

## 1. 本園の教育・保育目標

「意欲」・・・ 面白いことや楽しいことを十分に体験を通して、「～したい」につながるエネルギーを心身ともに培う

「感性」・・・ 様々な体験を通して、感じる心・表現する喜びを味わい、同時に知的な感覚を磨く

「思いやり」・・・ 他者と共にする生活や遊びを通して、友だちと過ごす楽しさや難しさを味わいながら、他者を慮る心や態度を培う。

## 2. 本年度自己評価と学校関係者評価 本年度スローガン『感じる』

項目		自己評価		学校関係者評価(意見)
本年度 重点	① 保育課程の見直し(実践)	B+	意欲的・主体的な子どもの姿が増えた一方、計画的(発達をふまえた連続性・総合性)な保育展開には課題がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園に来ると、“のびのび”“イキイキ”とした子どもの姿が印象的。</li> <li>・小学校でみても、ちぐさの子どもたちには“逞しさ”を感じる。</li> <li>・市民音楽祭等で活躍を見たい。</li> </ul>
	② ICTの活用	A	ICTの長所を活かした、迅速な情報管理・共有が、コロナ対応にも役立った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園から送られてくる子どもの様子を見るのが楽しみ。</li> <li>・新しいシステムを積極的に取り入れる姿勢が良い。</li> <li>・コロナもあって、メールや写真等の情報だけのやりとりが多くなってしまったので、対面での交流も大事にしてほしい。</li> </ul>
総合		A	保育実践としても、園運営としても、従来手法の抜本的な見直しに取り組み、子ども・保護者・保育者とも一定の効果がみられた。 内容の充実が次年度の課題。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題意識を持って、真面目に取り組んでいる先生たちの姿勢には頭が下がる。</li> <li>・もっと良くなるように頑張ってもらいたい。</li> <li>・少子化が進む中で、中長期的な園の方向性を考えることも大事。</li> </ul>

